

## 塩谷郡市医師会だより

## Contents

- 1 第3回理事会報告
- 2 第19回塩谷郡市医師会市民公開講座報告
- 3 学術講演会報告
- 4 会員投稿

一般社団法人 塩谷郡市医師会  
広報委員会

〒329-1312

さくら市桜野1319番地3

さくら市氏家保健センター内

TEL 028(682)3518

FAX 028(682)5760

## ◆第3回理事会報告

出席者：阿久津会長、佐藤副会長、村井副会長、花塚会計担当理事、佐藤(勇)・村井(信)・仲嶋・高橋・手塚・須田理事、中嶋・松村監事

令和6年9月24日(火)午後6時45分から、阿久津会長が議長となり開会を宣言した。議事に入る前に、亡くなられた植木先生へのご冥福を祈り黙祷を捧げた。

## (1) 役員の変更について

植木先生の後任については以下のとおりとなった。

- ・総務会役員… 大和田信雄先生
- ・栃木県医師連盟塩谷郡支部… 会計監督者 高橋雄二先生

・なお、理事については、令和7年4月の定時総会で選任することになった。

## (2) 第19回塩谷郡市医師会市民公開講座について(報告)

齋藤事務長から進捗状況について説明

## (3) 夜間診療室の運営(令和7年度)について(報告)

令和7年度の夜間診療室への協力依頼と、救急医療活動の報告と7年度の計画について齋藤事務長から説明

## (4) 今年度の行事等について(報告)

- ・12月1日 第4回ゴルフコンペ
- ・1月10日 矢板市医師団幹事の新年会
- ・4月19日 定時総会

## (5) その他

## ◆第19回塩谷郡市医師会市民公開講座報告

開催日時：令和6年11月10日(日)PM1:00~3:00

場 所：高根沢町市民ホール

ご来場者数：235人、スタッフ：45人

佐野厚生総合病院耳鼻咽喉・頭頸部外科主任部長 大久保啓介先生に「嚥下障害～誤嚥性肺炎を予防するために～」のタイトルでご講演いただきました。

第一部ではフレイル、サルコペニアによる嚥下障害を予防するための筋力トレーニングを司会者による実演を交えながら来場者全員で楽しく学ぶことができました。



第二部では、薬が飲みにくい人などは上を向いて飲むのではなく、顎を引いてごっくんの方が飲み込みやすい様子を動画で分かりやすく解説されました。

また、肉や餅などの食塊による窒息時の救急処置についても触れられました。常日頃、レストランで出くわしたら気管食道科医としてどう対応したらよいものか、おそらく背部叩打法やハイムリック法で窒息状態は解除できないだろうと考えておりました。左右どちらかの口角から指先で食塊をずらせば、わずかな隙間から吸気して喉頭前庭に嵌頓した異物を嘔吐反射とともに口腔内に喀出できるのではないかと。これも下顎を引く姿勢をとることにより、指先が食塊に最短距離で届いて掻き出せるかも知れません。もし市中でそのような困難な状況に直面した際には、トライして救命したいと思います。(越井健司)

塩谷郡市医師会ホームページ/メール

URL <http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/>  
メール [shioya@tochigi-med.or.jp](mailto:shioya@tochigi-med.or.jp)

広報委員会編集部

高橋 雄二 ・ 中嶋 義明 ・ 加藤 健 ・ 岡 一雄

## 学術講演会 I

「便秘症を侮るなかれ 脳神経内科医からの警鐘」

日時：令和6年5月14日（火）

講師：国際医療福祉大学塩谷病院

脳神経内科学教授 内山 智之 先生

便秘症について脳神経内科医の立場からのお話でした。

変性疾患は自律神経障害を伴うことが多く、便秘の怖さ神経疾患との関連・それに対する治療の3つの柱からの構成で話していただきました。



便秘の怖い合併症として腸

閉塞症・宿便性直腸穿孔などがあり、消化管外合併症として下部尿路症状・誤嚥性肺炎・慢性腎臓病のリスクにもなること。排便回数として1日1回は良いが、2～3日に1回はリスクを高めるといことです。

排便時のいきみはクモ膜下出血のリスクを7.3倍高めるとい話です。

続いて神経疾患と便秘としてパーキンソン病を含む脳疾患と脊髄疾患の話の中で、便秘をきたさない神経・筋疾患はないのではということです。

腸内細菌叢と脳の異常の中で、小腸内細菌異常増殖、吸収不良症候群、パーキンソン病やレビー小体型認知症などは症状発症前に便秘が先行することもあるという。

便秘の治療は二次的な原因疾患に対する対処、便性状を整える、ライフスタイルの見直し、排便姿勢、最後に必要に応じての薬物治療の話を行いました。（植木雅人）

## 学術講演会 II

「骨粗鬆症性椎体骨折にまつわる諸問題と手術治療の à la carte —BKP から後方矯正固定術、椎体骨切り術まで—」

日時：令和6年6月18日（火）

講師：国立病院機構 宇都宮病院

整形外科部長 茶藪 昌明 先生

成人脊柱変形では、脊柱のアライメント不良により、体幹のバランスが悪化し転倒のリスクが増大する。

骨粗鬆症性椎体骨折の治療においては、脊柱の後弯変形を残さないことが大切である。後弯変形は体幹バランスを悪くし、椎体骨折の続発リスクを増大させる。

しかし、椎体骨折は保存療法が選択されることが多く、後弯変形や偽関節となり持続的な疼痛や神経損傷による麻痺などで寝たきりになるケースもみられる。椎体骨折の場合、頻回のX P検査やMRI検査で、椎体の圧壊を見逃さないことが大切である。



治療は、経皮的に骨セメントを骨折椎体に注入するBKP（経皮的椎体形成術）があり、軽度の侵襲で疼痛改善、ADL改善が期待できる。しかし、脊柱のアライメントの改善はしないため、神経症状が出た場合やアラインメント改善のためにBKPに後方固定術が追加されることもある。

椎体骨折の状態や後弯変形によっては、OLIFなどの前方側方固定や、PVC Rなどの後方進入椎体形成術が行われる。（西川晋介）

## 学術講演会 III (Web)

「糖尿病治療の現状と課題～今後の糖尿病治療はどのように変わるか～」

日時：令和6年7月9日（火）

講師：浜松医療センター 内分泌代謝内科

部長 長山 浩士 先生

今後の糖尿病治療薬として、インクレチン関連薬が注目されている。

インクレチンは腸管由来のインスリン分泌刺激ホルモンで、GIPとGLP-1がある。インクレチンによるインスリン分泌は血糖依存性であり、血糖上昇時のみインスリン分泌を促進し、低血糖時にはインスリン分泌を増加させない。インクレチンの膝外作用としては食欲低下、胃排泄運動低下作用、心筋保護、血管内皮保護、脂質改善、血圧低下作用などが報告されている。

インクレチン関連薬は膵β細胞のインスリン分泌促進作用・膵β細胞保護作用のほか、従来の糖尿病治療薬にはない低血糖のリスク軽減、体重減少効果があり、生活習慣と関連した病態の改善が期待される。

持続性 GIP/GLP-1 受容体作動薬が開発されており、投与を受けた患者の多くでA1cの低下が認められ、体重減少も得られている。比較的若年者でA1c

が高く、肥満傾向の患者に適している。今後の治療実績により、さらに多くの患者に勧められる薬剤になることが期待できる。(仲嶋秀文)

#### 学術講演会IV

「高齢者における不眠症治療戦略」

日時：令和6年9月3日(火)

講師：獨協医科大学 日光医療センター

脳神経内科 科長 渡邊 由佳 先生



渡邊先生は、認知症がご専門と断わりつつも、睡眠に関する幅広い知識をわかりやすく解説していただいたため、不眠症に対する理解を深めることができた。まず正常の睡眠と不眠症の分類から始まり、高齢者の不眠症治療においては、健やかな

老後を過ごす上でも、とくに安全な薬剤を選択することが重要であるとの認識を示された。筋弛緩作用のあるベンゾジアゼピン系薬剤は現在では使用されることは少なくなり、より安全なオレキシン受容体阻害剤の使用を軸とした治療戦略を詳しく解説された。最後に質の良い睡眠をとる工夫としての12項目を解説されて講演を終えられた。

大変理解しやすく、日常診療に役に立つ内容の講演であった。(関根 豊)

#### 学術講演会V

「乳癌の薬物治療と遺伝性について」

日時：令和6年9月26日(木)

講師：栃木県立がんセンター

乳腺外来 竹前 大 先生

乳癌は日本人女性の9人に1人が罹患する、最も一般的な癌と言えます。早期発見やスクリーニングの重要性が強調されています。

乳癌は薬剤感受性の高い癌であり、ホルモン療法・化学療法をはじめとして、HER2



陽性乳癌に対する抗Her2療法、ホルモン受容体陽性癌に対するCDK4/6阻害や、トリプルネガティブ乳癌に対する免疫チェックポイント阻害薬など多種多様な分子標的薬による治療が展開されており、治療薬の適応も拡大しています。

乳癌の遺伝子検査やターゲット治療による個別化治療が進展しており、患者の遺伝子プロファイルに基づいた治療法が導入されています。

新しい化学療法や遺伝子検査の開発・保険適応が拡大しており、治療の選択肢が増えています。これにより患者の生存率や生活の質が向上する可能性が高まっています。(仲嶋秀文)

#### 学術講演会VI

「慢性心不全の最新治療と心腎連関」

日時：令和6年10月8日(火)

講師：国際医療福祉大学病院 副院長

循環器センター長 武田 守彦 先生

#### 学術講演会VII

「運動器疾患の早期介入と神経障害性疼痛の適切な管理の重要性」

日時：令和6年11月12日(火)

講師：国際医療福祉大学塩谷病院

整形外科副部長 菊池 駿介 先生



塩谷病院整形外科では骨折リエゾンサービス(FLS)に取り組んでいる。FLSは骨折を予防するために骨粗鬆症の早期発見、治療介入を目的とし多職種連携でチームを構成、全入院患者に対してスクリーニングを行い骨折のリスクが高い患

者に介入、骨密度検査を行い治療に結び付けている。この取り組みは国際骨粗鬆症財団でGold認定を受けており、県内では初の受賞となった。また、病診連携を通じて我々開業医が継続治療を行う場合の「二次性骨折予防継続管理料3」に関する施設基準の申請方法などを説明された。(橋本 敬)

#### お悔やみ

植木医院 院長 植木雅人先生(64歳)が令和6年8月22日に、ご逝去されました。

まなか医院 院長 廣木昭彦先生(77歳)が令和6年11月12日に、ご逝去されました。

謹んで、心からご冥福をお祈りいたします。

## 会員投稿 ☆三

### ◆山田クリニック開院30周年間近。

喜寿の院長は終活中

山田クリニック 山田 聡 (矢板市)

山田クリニックは1995年1月17日阪神淡路大震災の日が開業しました。来年1月に30周年を迎えます。私は大学の消化器内科医でしたが、学を深めるより広めるのに向いていると気づき、母が他界したのを契機に片岡に戻ってきました。消化器専門バカだったので、医師会やメーカーの講演会を見つけては参加し色々学びました。宇都宮や県北の頼りになる先生を沢山発見し知己を得たのは大きな財産になりました。専門外的生活習慣病、呼吸器疾患、骨粗鬆症、小児疾患、腎疾患、そして自分では解決できないが、患者さんから相談を受ける疾患の講演も聴きに行き、信頼できる先生を沢山知りました。ですから自分の手に余る疾患はすぐ紹介状を書くようにしています。そんな私ですが、今年喜寿を迎えそろそろ代替わりを考えています。子供達は皆医師になりましたが、専門分野や医師としての目標から開業医指向ではありません。そこでこの文章を依頼されたのを契機に跡継ぎの先生を探すことにしました。誠実で学ぶことの好きな先生なら開業医も遣り甲斐があると思います。

当院は10年以上人事で悩んだことがなく、それぞれ優秀なスタッフが揃っています。開業に興味のある方はご相談ください。どの専門分野の先生でも、暫くは元気に急がずに待っています。

### ◆まほろばの里

小林内科医院 小林祐一郎 (高根沢町)

秋になると朝霧、夕霧が山の端にたなびき、田には黄金の波が打ち寄せ、至る所で収穫作業を始める頃の風景を時々心に思い浮かべることがある。山肌の木々も美しく色付き澄んだ青空と流れる雲をバックに散策していると正にまほろばの里に迷いこんだ様な錯覚を覚える。

今から50年程前に、私は山形の某公立病院に約5年間、勤務したことがある。当初、灘の清酒を持参し挨拶に行ったところ、帰り際に、これを料理にでもお使い下さいと……又、地元では地酒以外は口にすることがないと云う方も居ると聞きました。それから、又一度お会いし心を共にした人はこれから

も一生付き合っただけの願いを込められ、ほのぼのとした気持ちにさせられました。その様な関係で50年も経った今でも、故郷に帰る気持ちで、年に一度は必ずドライブをして旧友に会ったり、なつかしい蔵王、吾妻、飯豊、朝日の山々を拝し、家内の安全と無事を日本三大文殊の一つである、亀田文殊堂で祈願し、旅するのが昨今の私の楽しみです。

寒暖の差が激しいため、野菜、果物の味は絶品で、直接品選びが出来るのが山形の旅の醍醐味の一つです。

### ◆愛犬から学ぶ

中川耳鼻咽喉科医院 中川 渉 (さくら市)

我が家では、8年前からゴールデンレトリバーを飼っています。大型犬で体力があり、散歩に2時間も付き合わされたことが数え切れないほどありました。春から夏の間は私が早朝に散歩をしているのですが、今年は遠くに行くのを嫌がり、すぐに休んでしまうことが多くなりました。シニア期に入ったこと、異常な暑さなどが原因か？と考えてました。又運動不足の為か体重は増加。フードは低カロリーの高齢犬用に変更、おやつはなしに。更にどんどん給餌量を減らしても体重は一向に減りません。原因は甲状腺機能低下症でした。決して思い込みで診療してはいけないと、自分への戒めとして反省する出来事でした。

### ◆第4回塩谷郡市医師会親睦ゴルフ大会開催

令和6年12月1日(日) さくら市のベルセルバゴルフクラブに3組11名の先生が参加されました。

好天候のもと、熾烈な戦いの結果は、  
優勝：松村先生(三連覇) 準優勝：半田先生  
DC：中山・後藤先生 NP：後藤・中山・松村先生  
BG：半田先生でした。

